

委託業務に係る進捗状況報告

1. 団体調査

市内のスポーツ活動に取り組む団体や個人教室の活動実態を対話やアンケート等により調査し、部活動の地域移行に関する方針を説明し、中学生等の受入や指導等に関する意向確認を行う。

1) 調査方法

①対話式での聞き込み調査

→現状把握及び課題、問題点の洗い出し、地域移行に関する方針等の説明

②Google フォームを活用したアンケート調査(目標数:500 団体)

→現状把握及び中学生受入交渉のための情報収集→受入交渉→地域クラブ総合サイト(仮称)へ掲載
予定

2) 調査実績数(6・7月)「団体17・個人1」

※5月調査実績数「団体7・個人2」

⑩	スポーツリズムトレーニング	トレーナー	藤谷真夕様	個人
⑪	周南市スポーツ推進委員協議会	会長	明石和憲様	スポーツ推進委員
⑫	榑浜バレーボールスポーツ少年団	団長	藤本勝彦様	スポーツ少年団
⑬	キャプテン館	代表代行	衣川信吾様	個人経営
⑭	(株)レノファ山口	ホームタウン担当部長 アカデミーダイレクター	大滝 徹様 高橋理文様	プロチーム
⑮	今宿スポーツクラブ	代表 事務局	ト部 巧様 田村隆嘉様 徳原峰男様	総合型地域スポーツクラブ
⑯	(株)ACT SAIKYO(バドミントン)	代表取締役社長 総合企画部	西 友理様 梯伸一郎様	企業チーム
⑰	周南クラブ(軟式野球)	代表	長野 功様	加盟団体(傘下クラブ)
⑱	メディカルフィットネス WINS	アスレチックトレーナー	安藤穂乃花様 松井 桜様	フィットネスジム
⑲	山口銀行ハンドボールチーム YMGUTS	監督 キャプテン	東 佑三様 岡田あずさ様	企業チーム
⑳	永源ソフトテニスクラブ(ソフトテニス)	コーチ兼事務局	松田秀樹様	加盟団体(傘下クラブ)
㉑	ひらちゅうランニングクラブ(陸上競技)	代表	平野忠彦様	スポーツ少年団 クラブチーム
㉒	周南ジュニアスキークラブ	代表	松永 茂様	加盟団体(傘下クラブ)
㉓	徳山RCコネット(陸上競技)	代表 事務局	藤井美智子様 藤井鈴子様	スポーツ少年団
㉔	周南クラブ(ソフトテニス)	代表 コーチ	永茂文彦様 上原真理恵様	加盟団体(傘下クラブ)
㉕	Shunan Buds(バスケットボール)	代表	内田昭紀様	加盟団体(傘下クラブ)
㉖	回転少年(ブレイキン・ストリートダンス)	代表 スタッフ	山縣 稔様 山縣和香子様	クラブチームチーム
㉗	NEO Family(バスケットボール)	代表	浅田将寿様	加盟団体(傘下クラブ)

3) 8月以降調査予定

- ・既に中学生を受け入れている(中学生が登録している)スポーツ少年団単位団
- ・Google フォームでのアンケート調査を広範囲で依頼する予定

4) 聞き込み調査の反応

(1) 具体的な内容(抜粋)

— 肯定的意見 —

- enjoy 志向で活動したい中学生であれば、専門的技術の指導が伴わないので、地区・地域の体育振興会(学校体育館で活動しているサークル等)や総合型地域スポーツクラブで対応可では。又、生活困窮家庭の中学生の活動場所として地区・地域で対応できるのではないだろうか。地域活性化の良い機会と捉えれば、体育振興会の活動も高齢化している為、中学生が入ることにより、多世代の人が集う場所になり、無縁社会からの脱却にも繋がると思う。
- 中学生にとっては世界が広がり、居場所を確保できるのでは。(非行や不登校対策など)学校、家庭だけでなく、別のコミュニティができれば、学校、家族と関係のない第三者へ相談するなど、良い面もあるかと思う。 スポーツ界全体として今回の地域移行に関して、「スポーツを行う上でのメリット(友達作り、健康、競技力向上)」をPRしてスポーツ離れを食い止めたいというベクトルはほぼ同じと感じている。競技を超えて「交流や共創(コラボ)」を行うことで、様々な競技指導者が観察し、競技特性から良質な逸材を発掘できる可能性もある。強いては、スポーツ界全体の底上げにもなる。

— 中間的意見 —

- 地域移行に係るチームやサークルは、日本スポーツ協会公認指導者資格を取得するなど、資質向上を図る研修会や講習会に参加を必須にすべき。
- 競技毎の拠点を市内に2~3箇所設けて、そこへ活動日時に中学生を集結。移動手段はバス会社又はタクシー会社と市が契約し、集団で移動可能にしてみても。
- もし各々サークル・クラブの活動時間に中学生が来るとなれば、夜遅くに帰宅も考えられる。
- 思春期の多感な時期の中学生を上手く指導し、導けるかが不安である。(特に女子)又、今までも指導中の発言や所作等に配慮はしているが、時に間違って捉えられることもあった。関係が拗れるのではないかも不安である。(併せて、中学生保護者との関係に苦勞する可能性も。)
- 事業は詰まるところ、「人物」。いくらシステムを構築できて、ニーズに答えられる体制が完成したとしても本当にこの事業が中学生にとって有益になるものにする為、中学生に関わる大人(行政担当者、教員、地域指導者、保護者)が相互間の連携と対話、そして定期的、継続的に事業へ関わってほしい。
- 前向きに考えており、部活動地域移行を好機と捉えてスキー競技を広めたい。又他競技と兼ねて所属することも今までも受け入れており、会員のプランに合わせて、活動(練習)に参加は可能である。競技志向だけでなく、生涯スポーツ(enjoy・健康志向)として広めたい。(過去の例:夏場は高校登山部で活動、冬はスキーで県代表としてインターハイへで出場等、また高校から弓道を始め国体3位になった)成長期の子供たちには、色んなスポーツを経験し、基礎能力(スポーツ万能:なんでもできる)の向上を図ってほしい。
- 中学生を受け入れて、生徒を増やして、ブレイキンを普及させたい。また、徳山地区で活動していることをもっと知ってもらいたい。他のスポーツや競技との併用での活動でも可能。ブレイキンは体幹やバランスのトレーニング、又はリズム感や記憶力(見ている動きを模倣して、即興で表現する)を養えるなど、他の活動にも波及効果をもたらせると自負している。他競技の指導者だけでなく、小中学生にも知ってもらい、一緒に参加してほしい。

- 学校教育課と校長会の協議の中で、現在の小学6年生児童とその保護者へ正確な情報提供を行ってほしい。「学校部活動は令和8年度までで終わるため自分たちが中学校に入学したら、部活動は中2まで継続できるけど、次の年からは部活動は停止となる。」と理解している保護者と児童が少数派と現場で感じている。国・県も含めた近隣地方自治体の動静を見て、計画修正（軌道修正）を考えているように思える。
- 市内小中学校体育館に、競技規則（規格）に則した設備を整備。小中学校毎に特定（指定）の競技仕様に整備をしてみてもは。 市内全小中学校体育館を全ての競技向けにラインや備品類を整備することは現実的に公費が嵩み難しいかと思うので、例としてバスケが使用できる体育館は「●●小学校、▲▲小学校、◇◇中学校」が整備するなど、競技の拠点となる体育館を決めると良いではないか。（現在活動しているサークル等もあるので一概に全てとはいかないにしても、既設の小中学校を有効に活用するアイデアとして）

— 否定的意見 —

- 地域移行となれば、それまで培ってきた各々の中学校の部活動（運動部・文化部）毎の伝統が途絶えてしまい、地域がそれを引き継ぐことは困難。人材が流出するのでは。
- 大会誘致や運営がままならなくなる。登録チームや出場チームが減ることで運営スタッフが不足し、競技大会が開催できなくなる。
- 既にソフトテニス競技は地域移行に先立ち、各地にクラブが立ち上がっており、事前の中体連からの説明会等もなかった。情報を早く手に入れたところが有利（入会者増）になっている。
- 中体連規定（活動時間、休日設定等）を中学校教員が守らずに、活動しているところを散見する。規定通りに活動している部活動やクラブチームにとっては不利益である。
- 生徒の発表の場（身に付いたダンステクニックを見て貰える場）が少ない。生徒の意欲や目標設定の意味でも発表の場が必要と考えている。大勢の市民や市内外から多くの人々が集まる祭り・イベントの実行委員会にステージでの演技（無償：時間と場の提供のみ）を働きかけても、参加させてもらえないのが現状。

(2) 複数の団体からの共通した意見(11点)

○子どもたちへの配慮(児童生徒の意見を反映されているのか。)

中学生が蚊帳の外で大人の都合で部活動をやらないというのでは、問題がある。「周南市こどもまんなか宣言」を実行する意味でも、子ども中心に考えた地域移行としなくてはいけないと思う。協議会の場に「高校生や中学生(可能であれば小学生高学年)」が入り、発言する機会を設け、児童生徒がシステム作りに関われるようにしてみてもはどうだろうか。 ※中学生と小学校高学年に希望調査(アンケート)はとっているもののその結果をもって「子供の意見」とするのではなく、「生の声」を大人が子供達の口から聴き、地域移行に反映させることが必要では。

○制度・法律等の障壁

立ち入れない聖域(制度・法律・予算要求・既得権益等々)があり、上部団体もモデルケースを持ち得てない。障壁が多い為、行政主導で担当部・課が積極的に今後受入できるであろう団体との関わりを今以上密に図ってほしい。 予算についての話が出ないため、議論が進まず、意見交換のみで良いのだろうか。

市として地域移行に関しての予算は(仮称)活動推進センター委託業務しか考えていないのだろうか。全権限を委託先(体育協会、振興財団)へ任せて、行政(学校教育課、文化スポーツ課)は令和8年度以降は全く関わりを持たないのだろうか。

学校から部活動を廃止する側(中学生の主体的なスポーツ・文化活動を地域に委託する側)の意思(姿勢)を明確に示さないと、委託される側は動きづらいのでは。 国や近隣の地方自治体の動静を見ながら、計画修正の余地も残しつつ、進めているといつまで立っても前に進まない。(移行期間の設定がどんどん将来へずれ込んでいく可能性がある。)

○中学校教員と生徒の関係希薄化

運動部活動がなくなることで、ますますスポーツ(運動)を行う人としらない人の2極化が進み、学校教員と生徒との関係も希薄になり、生活指導等に支障が出ると思う。 授業とホームルーム・学校行事(運動会・文化祭)での関わりのみとなり、人間関係の修復する機会や時間も欠如するのでは。

○中学校教員への支援、中学校教員の地域への協力

既に地域移行に対応するべく運動部活動のように指導したいという中学校教員は動き出していると同っている。兼職兼業が可能となれば、中学校教員が地域に入って来てくれて、地域の子供は地域で育成することがより強固になると思う。(中学校教員と良好な関係を築いたうえで、地域に関わってほしい)中学校教員(競技毎の専門的知識・指導技術を有する教員)へのサポートを優先するべきではないだろうか。(兼職兼業で活動できるための環境整備)

内申点の査定もある為、正しく中学生を評価する意味でも、教員にも関わってもらい、クラブ指導者と連携を図ってほしい。

○競技普及(底辺縮小の可能性)

地域移行がこのまま進み、当クラブの需要が増えることは収益面では有難いが、他のクラブとの人数にかなりの差が出てしまうと返って、「競技全体の普及」には繋がらない。中学生の需要を調査した後に、スキルアップを目的としたクラスとチームとして大会等に参加したいクラスの「2本立てのクラス設定」も考えられる。しかしながら、チーム間の人数格差が大きくなりすぎると双方(中学生、競技界)が不利益となり、そういった事態になるのは、本望ではない。

中学校に入って初めて競技に触れる機会(見る機会も含めて)があつて、素質を開花する中学生も多かった。まだ見ぬ才能を開花させる機会が失われる。素人だが、友人が始めたから一緒にやってみようというきっかけすらなくなる。中学校内で様々な競技を見る機会が完結していたが、これからは保護者と中学生が活動している場に自ら出向く必要があり、かなりハードルが高い。折角興味を示して練習したとしても、競技レベルの2極化や、試合に出ても大差の負けを繰り返せば、競技から離れる中学生も多くなる。競技レベルに応じた大会の開催企画も考えないと益々スポーツ離れが進むように感じる。

意欲のある中学生で入会したい中学生が入れば、指導することも厭わないが、クラブ内の競技レベルからすると競技経験のある中学生の受け皿的な意味合いが強いので初めて競技をする中学生には少しハードルが高いと推測される。

バスケットボール界全体のことを考えると我々のクラブチームだけでは、キャパシティー(指導者の数、指導者の時間確保、活動場所、活動資金等)を超えてしまう。競技の普及と底辺拡大からも東部にもう1つ中学生を受入れできるクラブチームがあると良い意味で競争できると思う。活動したい指導者の発掘と確保、立ち上げ資金援助を切望する。

受け入れは可能ではあるが、需要が高く、人数が増えすぎると、今まで活動していたクラブ員が練習できなくなるのではないかと心配である。又は、既存のクラブ員が活動しづらくなるか。

○クラブ会則・活動主旨の周知

現在のクラブ方針(会費や規則等)を理解した上で、入ってくるのであれば受入は可能。

○指導者の確保

教員 OB を活用しての活動となっているが、教員の定年延長と現在の指導スタッフの高齢化も進み、行く末を考えると、教員だけでなく、指導方針に理解のある地元企業で就職している OB などをもっと活用し、教員の考えに固執することなく、民間の考えも交えた多様性に富んだ偏りのない体制を整えたい。

4 名体制で指導するのであれば今の会員数(23 名)が丁度良い。しかしながら指導者が三交代で勤務している為、全ての練習日に 4 名が全員揃うことは稀。今後入会の人数が増えてくれば、今いる指導者だけでは不十分。大半はミニバス経験者であるが、中には中学校部活動からバスケを始めて、もっとうまくなりたいと入会している中学生もいる。練習内容も競技レベルに応じたものとしなくてはならず、その分指導者が必要となる。またミニバス(スポ少)の指導も別で行っている指導者もあり、指導者自身の体力と家庭のことを考えると指導者を多く確保したい。(代表指導者は週 3 スポ少、週 4 クラブチームで指導している。)

専門技術に特化した指導ができる人材の確保(陸上競技) 跳躍部門、長距離部門、短距離部門等、種別毎に専門技術指導が可能な指導者を確保しつつあるが、年齢を重ね、全ての実技(デモンストレーション)ができる訳ではないため、スタッフとして、卓越した身体操作ができる人材も確保したい。公立大学陸上部員にも積極的に携わってもらい、一緒に活動してほしい。(将来指導者として活動を希望する大学生のキャリアアップとしてもメリットがあると思う。)

スキー連盟公認の指導者資格保有者が多く所属しているものの現役で仕事をしている指導者が多い。

○指導者への謝礼

遠征時の指導者の宿泊代、高速代、移動の際の燃料代等を引率指導者で折半している。今後の活動を考えると関わる指導者への幾許かの謝金を支給できる体制にしないと若い人材を確保できない。現在、関わっている指導者スタッフはボランティアで持ち出しの方が多い。

施設使用料等で運営費が嵩み、指導者への謝金は拠出できていない。現在、職場のコンプライアンスもあり兼職兼業は出来なパターンが多いが、いずれ移行した際には指導者への謝金も必要となる。(全てがボランティアでは立ち行かなくなる)

競技特性から特殊技術を要することや、責任を持って、指導に関わる意味でも、ある程度の謝礼を指導者へお渡ししたい。大学生指導者へも謝礼を確保したい。

小学生指導とのバランスを考えると指導者への謝金等で助成金を頂くと運営しづらい。活動に必要な備品等購入に充てられるような形での助成があれば、運営費として充てられると助かる。

○活動場所への移動・非行防止

現状は放課後、学校敷地内で部活動を行い、終了後帰宅又は塾へ移動が大半の中学生の行動だが、地域移行すると、隙間時間が出来て、非行の原因とならないか心配である。中学生の行動パターンがほぼ確立されていることで非行抑止できていた部分が大いにあったと推察される。）又、一旦帰宅後、自宅で学習し、その後、再度外出するだけの余力を現在の中学生達は持ちあわせているのか。（大人であれば外出先から次の活動場所への移動なら、車やバイクなどの移動手段があり、さほど苦にならないが、一旦帰宅すると外出したくなくなる）

中学校から帰宅して、改めてスポーツ活動の為に、外出するのは大人でも億劫になる。外出時に運動を行って帰宅する方が効率が良い。

○練習場所の確保

現在利用させて頂いている周南市庭球場が利便性や保護者の送迎での車両の駐車スペースの確保を考えると非常に便利。ただ、利用者も多く、他のクラブや終業後の社会人の練習なども同様に考えているため、コート予約に苦労している。現在の照明設備ありのコート数では賅えないと思う。全面にナイター照明設備の敷設を希望する。

スムーズな移行を考え、早めに立ち上げ準備に取りかかった。しかし市内小中学校体育館や公共施設は既存の定期利用団体が入っており、活動場所の確保に苦労した。今活動している練習会場も他競技と共有して(体育館内半面をバスケ、もう半面を卓球等)練習している。全面が使用できる訳ではない。現在、市内西部を中心に練習場所を何とか確保できたが、市内で競技志向ではない中学生を受入れ出できるクラブは本クラブしかない為、今後選手の数が増えてくることを考えると市内東部でも練習する会場が確保できると良い。また、学校開放においては、学校にその都度、空き状況を確認し、申請を紙媒体で提出するといったやり取りをしておりますので、改善してほしい。

放課後の学校内施設を使用してほしい。今まで利用が叶わなかったが、現在、新興勢力(新規クラブ)が続々増えており、活動場所の確保が困難になってきている。その為、学校施設が利用できると定期的な練習が可能な体制を整えやすいので、非常に有難い。

現在市民センターで活動しているが、10名程度がギリギリの広さ。今後活動をPRして、生徒が増えてくれば、場所を増やして、受け入れ体制を整えたい。しかしながら、夕刻から22時にかけてはどこの施設も既存団体が定期的に活動しているため、入りづらい。(ダンス演技全体が確認できる鏡、ブレイキンのテクニック(頭で回転する)の練習のためのマット(約10万程度)などが必要となる。

市陸上競技場は今後改修工事に入り、竣工後の使用方法や料金設定が今段階では不明確。その為、現在使用しているような形態(減額や免除での利用)が叶うか不安である。公立大学陸上競技場の利用もさせていただけると良い。

○金銭面の支援(クラブ運営)

中学校部活動で中体連主催大会にて勝ち進み、上位大会(中国・全国)へ出場する際は、中学校より宿泊費等の補助がなされていた。クラブ設立時や入会時に保護者へ理解頂いた上で、活動しているものの地域クラブでの活動となると保護者への負担が大きくなり、行政側で補助してもらえないようにならないか。新しく立ち上げるにあたり、中学生規格のボールや試合用のユニフォーム(上半身のみ：チーム保管)や練習で使用するビブス等諸々を購入したが、総額80万程度掛かり、そのうち約30万は

代表指導者が個人で建て替えている。いずれ人数が増えて、クラブが軌道に乗って安定してきた際に、クラブ会計より返還する予定ではある。立ち上げ時の初動段階で必要経費を助成してくれれば、非常に有難かった。地域が受入れるとなると金銭面でも大きな課題があるので今後立ち上げる団体だけでなく、既に活動している団体への助成を行ってほしい。

(3) 総括

基本的に課題や問題点が解決できれば、受入は前向きに検討したい団体が多数。県や市の方針が明確になりある程度の流れが確立されれば、順をおって着手したいというのが団体の思い。手探り部分が大きいので不安感の方が勝っている状況にある。

また、中学校教員と生徒との関係性が希薄化することを危惧する意見や、やはり教員の役割を地域の指導者が担うことはできないので、非行防止の観点からもできるだけ多くの教員に兼職兼業で携わってほしいという意見も多くあった。

あとは、練習場所の確保が不透明なので不安感を抱いている団体が多い。中学校を使用するための手続きや人数が増えた場合の別会場の確保ができるのか。現状で公共体育施設、学校施設等、使用したい時間に空きがない状況と新規で施設予約しようとする際の大変さをどの団体も理解している。また、市内小中学校体育館を競技ごとに拠点校を定めて、競技規格に則した設備を整備するといった包括的な意見もあった。

金銭的なサポートもやはり必要性が高い。ほとんどの団体で代表者や指導者が身銭を切っている。指導者への謝金や大規模大会への出場を考えると受益者負担のみでは、発展的に継続していける可能性は低い。

2. その他(仕組構築状況、教室、フェスタ、シンポジウム等)

- 1) スポーツ団体・指導者を対象とした研修会・・・講師、日程、会場等、調整中
- 2) 休日クラブ実証事業・・・体協にて2～3案内容を立案中。その後、学校教育課、文化スポーツ課を通じて、中山間部の中学校長・教頭へご提案し現場の要望を受け内容を精査のうえ2回程度の教室を実施予定
- 3) しゅうなんスポーツフェスタ・パラトリウム大会・・・
第1回運営会議 7月14日(金)実施に実施し、コンセプト及び今後のスケジュールの共有やブース、コンテンツの協力依頼を行った。
会議構成者(文化スポーツ課、健康づくり推進課、周南公立大、周南市スポーツ推進委員会、アシックススポーツファシリティーズ(株)、。カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)、体協)
第2回運営会議 8月8日(火)に実施予定
- 4) シンポジウム・・・会場及び開催日の決定(12月23日(土)*学び交流プラザ) 登壇いただく有識者の選定を関係機関(文化スポーツ課、学校教育課)と協議中